



第31期卒業生の門出を祝して

校長 山田 杉子

春の暖かな陽ざしが降りそそぎ、木々の新芽が膨らみ、花々が次々と開いて春の訪れを実感する本日、第31期生319名は門出の日を迎えました。

この3年間には、卒業生それぞれにたくさんの学びや学校行事・部活動・生徒会活動・海外研修などでのさまざまな体験、そして多くの人々との出会いと交流があったことと思います。本校は教職員

一同、皆さんを大きく育てようと、日々多くの教育活動を実施してきましたが、その実りのためには何よりも卒業生自身の努力と、常に温かく見守り支えてくださった保護者の皆様やご家族の大きな支えがあったことと思います。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業生の門出を祝うことを楽しみにしてくれていた在校生、保護者の皆様やご来賓の皆様に出席していただくことがかなわなかったことをお詫び申し上げます。そして保護者の皆様、PTA・後援会役員として支えてくださった皆様、また多くの活動でお世話になった地域の皆様、関係者の皆様にはこれまで多大なるご協力やご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

卒業生が進んでゆくそれぞれの道にはさまざまな課題が待ち受けているかもしれませんが、和国で養った力をさらに伸ばしながら、真っすぐに力強く歩いていくよう願っています。卒業生の皆さんの今後のご活躍を願うとともに、これからはぜひ卒業生として母校である和国を応援していただくようお願いいたします。ご卒業まことにおめでとうございます。



◇平成31・令和元年度を振り返って

県からの通知により3月2日から臨時休業となり、学年末考査や授業、行事等に大きな影響が出ていますが、本校では登校日及びホームページや一斉メール等で対応します。(右頁参照)

今年度も55分授業とカセット授業による33単位の授業の充実を図り、予習・復習・課題等の自主学習を定着させようと各教科・各学年で取り組んでまいりましたが、これについてはまだ十分とは言えず、学校が授業改善や部活動とのバランスのとれた生活に配慮するとともに、生徒にも自覚と主体性の向上を求め、自学自習を着実に実行できるよう指導してまいります。

みづのき祭や海外修学旅行、多くの国際交流や海外研修、持久走大会など充実した形で実施でき、国際高校の生徒として視野を広げ、共生力・人間力を身につけることにつながりました。また海外大学との連携協定を結ぶことができ、進路選択の幅を広げることができました。

◇インドネシアの高校生が来校しました

2月18日(火)～20(木)の3日間、インドネシアの Progresif Bumi Shalawat Senior High School (高校) の生徒19名と3名の先生方が本校を訪問し、授業や日本文化



や部活動などを体験しました。最終日には、2年生全員の前でインドネシアの民族衣装や食文化を英語で紹介してくれましたが、インドネシアの生徒たちは英語力もプレゼンテーションも素晴らしく、大いに刺激を受けました。最後には「未来へ」(Kiroro)を日本語とインドネシア語で歌うなど、素晴らしい文化交流ができました。



は、2年生全員の前でインドネシアの民族衣装や食文化を英語で紹介してくれましたが、インドネシアの生徒たちは英語力もプレゼンテーションも素晴らしく、大いに刺激を受けました。最後には「未来へ」(Kiroro)を日本語とインドネシア語で歌うなど、素晴らしい文化交流ができました。

◇新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業とそれに伴う対応について

3月2日（月）から3月23日（月）までを臨時休業とします。まずは手洗い・うがい・マスク着用・人ごみへの外出を避けるなど感染防止の基本行動を徹底してください。1・2年生の学年末考査第3日・第4日は中止し、学年末評価は1・2学期の成績と3学期の取組状況等により総合的に評価します。また、登校日を3月13日（金）と3月19日（木）の2回設定し、必要な連絡や学習課題の指示・回収、通知表の配布等を行います。

また、臨時休業中の部活動は中止します。海外研修は、受け入れ先及び県教育委員会からの中止要請を受け中止させていただきます。参加予定の生徒・保護者の皆様には多大なご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。なお、今後の状況により変更や新たな措置を講じる場合はホームページと一斉メール等で連絡します。

1・2年生の皆さんは自分のやるべき課題にしっかりと取り組み、新学期に向けて十分な準備をして臨むように最大限努力をしてください。春休み中については別途通知します。

平成31年度学校自己評価について

さる2月10日（月）に第2回学校評議員会・学校評価懇話会を開催し、学校評議員等委員の方々に今年度の取組の状況や今後の課題等について報告し、ご意見等を伺いました。（裏面をご覧ください。）来年度も特色ある取組を推進しながら、授業の充実や生徒一人ひとりに合ったきめ細かな生徒指導・進路指導、学校行事や部活動等の充実に努めてまいります。

シリーズ 『和国生へのメッセージ』

3学年主任 下谷 房道



卒業生の皆さん。社会の授業は終わりましたが社会の勉強はこれからが本番です。知識詰め込み中心の受験勉強をした人ほど陥りやすい落とし穴があります。勉強は社会の中で、他者とのつながりの中で行われるものだ、ということを書きます。

私にもようやく受験生活を終えて、期待を持って大学に通い始めた時期がありました。ところが、講義はさっぱり分からなかったし論文も難しくて読めなかったのです。さては進路を誤ったかと悩んでいた頃、一般教養科目の講義でアパルトヘイトについて学びました。それは、当時南アフリカ共和国（南ア）で行われていた人種隔離政策のこと。黒人を中心とした有色人種が差別され、ひどい政治的経済的境遇に置かれていました。日本は南アと経済的に密接な関わりを持ち、日本人は「名誉白人」の扱いを受けていました。この問題を調べると南北問題にぶち当たります。地球上の北に多い先進国と南に多い発展途上国との間には大きな経済格差が横たわり、多くの資源が南から北に流れています。例えば一本のバナナはどこで誰によって生産されているのでしょうか。自分の生活も世界的な構造の上に成り立っています。当時の日本はバブル経済に入っていく頃。マネーゲームでお金を儲けることがもてはやされる風潮があり、私は大きな違和感を覚えました。

高校時代に受験勉強が大変だったとか、それなりに悩んだといってもたいていは自分のことばかりでした。もっと人間や社会のことを学びたくなりました。私の大学での専攻は日本中世史でしたが、最初に書いたように難しくよく分かりませんでした。それが多少なりとも前向きに進んだのは、勉強には意味がある、と納得できてからのことでした。

Small Steps, Great Dreams. 「一歩一歩の小さな努力が大きな夢の実現につながる」